

御殿場

2013  
No.200号

冬

# 十字の園

(題字 鈴木生三)

発行/総合福祉施設  
御殿場十字の園  
施設長 宮島克利  
〒412-0023 御殿場市深沢1465の1  
TEL 0550-83-1999  
FAX 0550-82-5189  
<http://www.jyuji.ne.jp>  
e-mail:info@g.jyuji.or.jp  
印刷/岳麓印刷株式会社

〔聖句〕喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマ12:15)



『2013年 新年ご挨拶』

イルド

理事長 平井 章

御殿場十字の園機関誌一〇〇号を開くと、森本前理事長の挨拶、上野前施設長のあとがき、九名の写真とメッセージが載っています。共に働いた人たちです。二二年が過ぎ、この人たちは召天、退職、転勤で御殿場を離れています。でも、今の世代に継承されての二〇〇号誌刊行は、一九七五年から八一年までの編集者である私にとっては感謝、感激です。

私のイルドの寄稿も二〇〇〇年七月に始まり、足掛け一二年、五〇回目になりました。自分の書いたものでも読み返すと、時代の中で生きた自分の足跡を垣間見ます。パソコンに保存してある新年、敬老の日、十字の園大会の時に書いた理事長メッセージ、法人・施設機関誌への寄稿文、講演・講座の原稿などから文章を選択し編集して本づくりを計画しています。勿論、このイルドに書いたものも入ります。礼拝説教は自分の信仰の姿が浮かび上がるでしょう。

## 自ら近寄り、関わる

御殿場十字の園施設長 宮島 克利

私が就職し始めたころ、仕事について「二年目に畑を耕し、二年目に種をまき、三年目に花を咲かせるようなもの」ということを聞いたことがありますが。これは、ちゃんと基礎を習得し、目標に向かって取り組むことの大切さを示唆したものだと思いますが、三年が経つのは、なんと早いことかと、最近はずづづく思います。

施設長に就任してから、気が付けばもう三年が経ちます。とても花と言えるようなものはなく、日々業務をこなすのが精一杯であったような思いです。それでも、漠然と月日だけが過ぎてしまわないために、また、理念に適った歩みを続けられるように、改めて、今日までを振り返りたいと思います。

この三年間に、施設は開設四〇周年の節目を迎えました。この節目の時期に、私たちは開設からの想いや取組みなどを整理しながら、変えるこ

とのできないものは何か、理念に適った働きとは何かを学びました。

創設に関わられた八二姉妹、二三姉妹の十字の園への祈りと言葉が召天記念誌に次のようにあります。「社会福祉法人は、法律によって人間の頭で造ったものです。聖霊が、この形の中に愛を満たしてくださいるように祈っています。神様のお導きと、祈りによって生まれた十字の園。どうか十字の園が栄光を神に帰する群れでありますように。朝毎にみ言葉を聴き、み言葉の確かさに導かれて励まされて、神様のみ旨にそった歩みがなされますように。十字の園の上には、神様の祝福をお祈りいたします。」と記されております。

また、昨年の十月に、十字の園大会が御殿場で開催されました。そこでルーテル学院大学学長・教授の市川二宏先生をお招きし、その講演の中に次のようなお話がありまし

## 「イエス様の憐れみの心」

— マタイ二十章二九〜三四節 —

御殿場教会 牧師 中島 善子

盲人がイエス様に叫びます。「主よ、ダビデの子よ、私達を憐れんでください」。意味は深刻です。「主よ、憐れみ助けてください。私には主の他に頼るものは何もありません」。

癒しを求める盲人をイエス様は深く憐みます。でもイエス様の「憐れむ」は、盲人が叫んだ「憐れむ・助けてください」とは原語が違うので、意味も異なります。イエス様の「憐れむ」は「相手の苦しみや痛みを、自分の事として苦しむ痛み」です。故にイエス様は盲人の彼らのこれまででの労苦をすべて憐れみ、ご自分の事として受け止めます。それだけでも彼らには、どんなに幸いだっただか。

人には自分のことを分かっで欲しいという願いがあり、それが苦しみや痛みであれば尚更です。現状は変えられなくても、心の重荷や思い煩いを分かちてもらいたいと、人は誰でも願っています。そんな私達の傍らに寄り添うのがイエス様です。そして私達の苦しみや痛みを、

イエス様はご自分と事として受け止めて分かちてください。私達の苦しみの解決のために、イエス様は本気で仕えてくださいます。このイエス様の憐れみは、今もすべての人に注がれています。それだけでなく、イエス様は、ご自分の憐れみの心(人の痛みを、我が痛みとして受け取る心)を、すべての人が受け取ることを願っています。

盲人は癒された後、イエス様を信じて従います。彼らはイエス様の憐れみの心をもつて宣べ伝えたことでしょう。

「人の痛み、しかも罪人の痛みまでも、我が痛みとして受け取る、イエス様の憐れみの心」。

それは弟子達から、イエス様を救い主と信じて従う多くの人たちに伝えられ、御殿場の地にもイエス様の憐れみの心は実を結びました。四十年前程前、御殿場十字の園が誕生しました。人の痛みや苦しき、悲しみ、孤独などを自分自身のものとして受け取り、仕えようとす

イエス様の憐れみの心が、十字の園を、ここに生み出しました。だから十字の園はただの介護施設ではなく、イエス様の憐れみの心を世に現わす施設です。だからここに欠かせないのは、あの盲人のように、イエス様を信じ従う者とされることです。

イエス様は、限界ある人の優しさではなく、永遠に尽きないご自分の憐れみの心で、ご自分を信じて従う人たちに、惜しみなく与えてくださいます。

御殿場教会に赴任して一年。毎週、十字の園の礼拝で説教していますが、御殿場教会の礼拝に出席された十字の園の職員の方は十二年間で五名程です。まず私の説教の貧しさを神様に深くお詫びすると共に、私もイエス様の憐れみを求めて、心から叫び祈ります。

「主よ、憐れんでください。イエス様の憐れみを職員の方々に伝えられなかったことをお赦しください。でもどうか十字の園で大切な務めを担う職員の方々が、憐れみの源・イエス様を信じて従う者とされ、イエス様の憐れみの心が職員の方々の心に豊かに実を結ぶよう、助けてください」。

(十字の園大会開会礼拝説教)

た。「法人理念をヨコ軸に置き、その中心にタテ軸のキリストの愛を置きます。タテ軸とヨコ軸が重なったところが、キリスト教社会福祉の実践です。」とのことであります。

振り返って私は、そうした実践をしてきたでしょうかと問われると疑問や不安が残ります。改めて、利用者の方やそのご家族、共に働く職員、地域の方々、関係機関などへ自ら近寄り、関わりを持ちながら、思いや必要とされることを理解し、感じ取り、取組んでいくことが大切であることを思います。

新年度を迎えるにあたって、計画している主な取組みについても、様々な意見やご要望を受けながら進めて行けたらと思います。以下、二〇二三年度の主な取組みをご紹介します。

**【主な取組み】**

一つは、施設において、今も行っている「自立支援ケア」への一層の取組みと、ユニットケアのためのハードとソフト両面の見直しです。三年度も「介護力向上講習会」へ参加しながら、自立支援ケアに組織的に取

組んでいきます。合わせて、施設見学やユニットケアに関する研修会に重点的に参加し、いずれは全個室化への想いをもち、環境や職員の配置、シフトなどについて研究し、検討していきます。また、医師に常勤として勤務していただき、重度化への対応や看取りケアへの充実を図ります。

二つ目は、在宅家族介護者教室として、御殿場十字の園「絆の会」の発足です。これは、在宅で介護をされている方同士がお互いの交流を図り、介護などについて気軽に学び合う機会として定期的に開催するものです。また、通所サービスにおいて、理学療法士等が効果的に支援できるよう、リハビリ機器等を整備し、機能訓練の充実を図ります。

三つ目に、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）の開設です。御殿場市において認知症により支援が必要の方が増え続けております。そのニーズ等に応えるため、御殿場市により事業所として選定された場合に、新たな事業として一四年四月の開設を目指します。

**新年挨拶会**

施設相談員 長田 美佳

平成二十五年一月一日「今年もよろしくお願ひします。かんぱい！」という園長の挨拶から、新年を迎えました。毎年、元旦には新職員が艶やかな着物を着て、新年のご挨拶に回ります。皆さん、着物に親しんできた方達ばかりという事もあり、着物を着た職員を見ると「綺麗だね〜」「すごく良く似合っ



る！」「華やかでいいわね〜」などの声が聞かれ、終始、笑顔が絶えない時間となりました。男性の利用者の皆さんも、「綺麗だ綺麗だ」とニコニコされ、お酒が進んでい

たようです。今年も御利用者の皆さんが生きる喜びを感じ、充実した生活が出来るよう、ご支援させて頂きたいと思っております。今年もよろしくお願ひ致します。



**家族懇親会**

施設相談員 猪越 貴史

二〇二二年十一月一日（土）に特別養護老人ホームを利用されている方の御家族を招き、家族懇親会を開催致しました。二十七家族三十名と多くの御家族の皆様に参加して頂きま



した。当日は、昨年度から取り組んでいる「いきいきクラブ」の活動内容の紹介やユニット別の懇親会で「自立支援」への取り組み等の紹介をし、職員と御家族との意見交換・交流を深めることが出来ました。今後とも御家族から頂いたご意見を今後の支援に活かしていきたいと思ひます。



### ひまわり

十二月十三日に利用者さん五名の方と御殿場高原のイルミネーションを見に行きました。

二組に別れて出発し、まずは夕食としてラーメンを食べて身体を温めてイルミネーションを見に行きました。その日はとても寒い日でしたが、イルミネーションがとても綺麗で寒さも忘れ大変喜んで頂きました。来年も機会があれば、今の季節でしか観ることの出来ない景色を皆で見に行きたいです。

ひまわり 中島 渉



### すみれ

**新東名に乗り駿河湾沼津へ**

冬のドライブ外出は、新東名に乗り駿河湾サービスエリアに行きました。サービスエリアから見る駿河湾はとても綺麗で寒さを一時忘れさせてくれました。

利用者さんの希望だった海鮮丼を召し上がることもでき、笑顔がいっぱいの一日になりました。

すみれ 依田 未帆



### コスモス

**お好み焼き外出**

ショートステイでは、冬の外出として道頓堀にお好み焼きを食べに行っていました。

みんなで食べたいメニューを決めたり、ご自分で焼くことができたため、とても美味しく楽しい時間を過ごすことができました。今後も利用者様が喜んでいただける企画を計画していきたいと思えます。

ショートステイ 宮地 秀明



## 寮棟 イベント / ドライブ 外出

### ひばり

**紅葉狩り**

近場でドライブ外出に行きました。富士霊園では御殿場市内よりも一足早くモミジやイチョウが綺麗に紅葉しており、利用者さんからも感嘆の声が聞かれました。その後魚河岸にて寿司を食べ、近場でしたが十分満喫できました。

ひばり 土屋 絵美



### ちどり

**秋のドライブ外出について**

山梨県にある忍野八海にドライブ外出に行つて参りました。寒暖の差が激しくなり、木々が色付いてきており、とても綺麗でした。利用者の方々は、いつもと違う環境ではありましたが、風景や食事を、とても楽しまれておられました。

ちどり・ほととぎす 松本 耕



### カナリア

十一月二十一日にドライブ外出しました。行き先は富士サファリパークです。当日は晴天に恵まれて絶好の外出日和でした。現地到着して入園手続きをして、車を降りずにそのままサファリゾーンに向かいます。車内から虎やライオン、象に熊、その他草食動物達を間近に見ることが出来て皆さん興奮されておりました。その後園内のレストランで食事をし、帰路に「たのしかった」「おいしかった」とお腹も気分も大満足の一日を過ごしていただきました。

カナリア 内村 一俊



### ケアハウス

## 御殿場アドナイ館

鬼塚 歩

### 自然を満喫

十一月十五日、丹沢湖へドライブ外出に出掛けました。この日は、気候もだんだんと寒暖の差が出てきた頃で、紅葉や黄葉が色づき始めていました。

お天気にも恵まれ、風もなく青空で、山々の紅葉が素晴らしい。車内からは皆さんの「綺麗ね」の声が聞こえていました。

昼食は、丹沢湖記念館の前にある「落合館」にて手打ち蕎麦や、山女、岩魚の塩焼きなどを美味しく頂きました。デザートの温かいチーズケーキも絶品でした。

自然を満喫した一日を、楽しく過ごさることができました。





「ひだまり」の皆さんにパッチワークを教えさせていたただいて早一年が経ちました。毎週第二月曜日の午前十時から二時間、七人の方々と楽しくパッチワークをさせていたただいています。

八十年代後半から百歳のお歳の方々ですが、とてもお元気であるとともに手先が起用でいらつしやるのに驚きます。また裁縫等の縫い物の経験を皆さんお持ちであるため、とてもお上手です。

この一年で『鍋つかみ』『コースター』『巾着』『ポーチ』『クリスマス小物』等色々な作品を創っていたいただきました。作品が完成すると写真を撮り、その時々々の努力の賜物を記念に残しています。これからも楽しく教室ができたらと思っています。

＜ボランティア紹介＞  
パッチワーク  
ボランティア

重野 美枝子

ひだまりデイの一日

ひだまり 松本 有里

ひだまりデイの一日の始まりは、お茶を飲みながら、たわいもない会話から始まります。富士山に雪が積もった話から、昔の話、御殿場の行事や、時には、政治の話まで、様々です。季節の変化に応じた服装や身なりに気を配る事は、心の健康に繋がると考えています。

午後からは、ご利用者の皆様に輪になって頂き、約一時間の体操とレクリエーションを実施しています。身体の屈伸運動や、関節をやわらかくする運動などを行い、筋力維持や、血行促進、便秘解消に繋がるように、努めています。

たくさん笑い合えるように、毎日を大切に過ごしていきたいと考えています。



喫茶「ぶどうの木」

ぶどうの木 渡辺 弘子

毎週月・水・金の十三時～十五時三十分、正面玄関のすぐ左側で営業しています。照明が灯ると「ほっとするオアシス」と仰る方もあり、その言葉を励みに今年で九年目を迎えます。デイサービス等ご利用の方、入居されている方、近隣の皆様。ボランティアで見た方等多彩なおお客様が見えます。何か前「特養でこういう設備（喫茶）のある所は珍しい。」と言ってくださり嬉しく思ったことがあります。

一対一で話をしたい。自分の思っている事やお天気の話、世間話等々が出る場でありたいと思っています。



2019.01.11 16:00

餅つき



餅つきを行いました。

昨今は餅つきを行う家も少なくなり下準備にも戸惑うことも少なくありません。そんな時でも餅つきが執り行えるのは「昔とった杵柄（きねづか）」の方々が居てくださるからです。

「杵柄」は杵の握りの事で、餅をつく腕前を指します。昔はこの家も年の暮れに餅をつき、一家の主が杵を握りました。その主が隠居しても、ひとたび杵を握れば熟練の腕前を発揮する人もいた事から、かつて身につけた技能がイザというときに役に立つことを「昔とった杵柄」と呼ぶようになったと言います。文字通り私たちは「昔とった杵柄」を体験しているわけですね。

献金下さった方々

敬称は略させていただきます

9月分

米山武義、丸木進、勝又辰、加藤喜美子、岩渕年子、高村靖之、小宮山光文、小宮山亨、安藤文知子、富士社会教育センター

10月分

加藤喜美子、山崎れい子、米原一郎

11月分

富士社会教育センター

12月分

小林一、社団法人日本善行会、御殿場支部、長田喜芳、武藤さくゑ、栗駒啓治、藤池久子、石渡理子、諸星広美、佐藤正明、山崎れい子、中島善子、伊勢田きぬ、西村正子、御殿場

御殿場十字の園への  
ご寄付

9月分 10件	76,000円
10月分 3件	12,000円
11月分 1件	10,000円
12月分 25件	274,000円
9~12月分 累計39件	372,000円

ご献金、ご献品心より  
感謝申し上げます。

郵便振替口座  
口座番号 00870-9-190162  
口座名称  
社会福祉法人十字の園  
御殿場十字の園

ご連絡下されば振替用紙を  
お送りいたします。

民踊グループ、鈴木艶子、千田恵子、矢澤信明、丸木進、日本キリスト教団沼津大岡教会、ロッキーワタ、佐野みゆき、上野忠昭、杉山薬局、日本キリスト教団砂町教会、富士調理技術専門学校

協力ボランティア

敬称は略させていただきます

9月

みくりや友の会、中里京子、市野はつ、芹澤菊枝、厚生年金婦人部、不二聖心母の会、渡辺弘子、アドナイ館、東山婦人会、不二聖心中学生、志村絢子、玉穂婦人会、資生堂リハビリメイク、なでしこ会、中垣内紀子、ビューティーサロンヤマダ、ナカノ美容室、福祉グループ、池谷香奈子、山本浩子、光寿会、赤十字奉仕団、御殿場教会、隆

10月

生会、琴音会、菅原幸和、富士社会教育センター、伊藤洋子、斉藤淑子、御殿場高校情報システム科、クレル美容室、太極拳カツマタ、鈴の会、ピンチェ合唱団、高根婦人会OB、重野美恵子、井沼千代、池谷知子

11月

みくりや友の会、中里京子、厚生年金婦人部、市野はつ、藤川けんグループ、ビューティーサロンヤマダ、玉穂婦人会、不二聖心中学、貢宝会、赤十字奉仕団、御殿場教会、隆生会、若葉会、若藤会、厚生年金婦人部、太極拳カツマタ、アドナイ館、鈴の会、高橋浩子、芹澤菊枝、福祉グループ、なでしこ会、関根保子、菅原幸和、重野美恵子、井沼千代、高根婦人会OB

12月

鈴の会、富士社会教育センター、杉の子大正琴、高根婦人会OB、重野美恵子、井沼千代  
みくりや友の会、中里京子、厚生年金婦人部、山本浩子、芹澤菊枝、アドナイ館、伊藤洋子、AKI美容室、関根保子、なでしこ会、市野はつ、印野はごまの会、不二聖心高校生、渡辺弘子、春風二路、御殿場教会、資生堂リハビリメイク、赤十字奉仕団、隆生会、深沢大正琴、若葉会、神保久美子、鈴の会、斉藤淑子、中垣内紀子、菅原幸和、重野美恵子、井沼千代、高根婦人会OB、池谷知子

あとがき

北京条約で香港が租借された年は九十九年。十九世紀末「九十九は半永久的な意味を持っていました。大阪千里中央で万国博が開催された九七〇年、三十年後の近未来二十一世紀は他人事感覚の遠い遠い未来でした。同じ年の十一月十五日創刊・機関誌第一号を創り出した人々には「二百号」は「見えるけれど遙かな数字」であつたに違いありません。

四十三年を経た二〇三年、最初の今号は「ぼんやり見えていた未来がある日近くに來ていた」嬉しい戸惑いを込めた二百号として皆様のお手元にお届けします。(やまもと)

★ クリスマスツリー

私たちのクリスマスツリーは、半世紀前ドイツから來られたドイツセッセ母の家の姉妹たちが教え伝えてくれました。十字の園、教会、聖隷関係はこの飾り方を守っています。

ツリーは三種の星を纏います。「一番上の大きな星は「ベツレヘムの星」。麦わらを開き平らにして糸で編んで作った小さな星は枝々に散りばめられます。ろうそくの灯りは「ヨハネ福音書」キリストを「光」(ヨハネ福音書)としていたことにも由来するのではありません。枝の間から漏れるように、枝の間から漏れる幾つものゆらめく灯りに気高さを感じさせます。

錫のような銀色の飾りは、下からベツレヘムに向かい天使が通った跡を表します。だから上から下へ流れるように飾るのが美しい飾り方です。

そここに下がる金平糖のような玉と、幾何学的なデザインに切込みが入った紙は共に、降る雪の結晶を意味します。モミの木は常緑樹で神の永遠を表します。通常モミの木は枝が閉じているので、枝に赤いリントゴを吊るして枝を広げます。

クリスマスツリーは一月六日のキリストの公現日まで飾るのがキリスト教の本式です。

